

## 第2グループ【防災・生活安全分野】

---



# みなとタウンフォーラム・第2グループ 防災・生活安全分野

令和2(2020)年3月23日

## みなとタウンフォーラム第2グループ [メンバー]

川村 潔	小松 弘美	佐久間 孝夫
堀 雄一	松田 稔	三戸谷 二郎
南 かほる		

※メンバーは五十音順



# 提言にあたって

## 第2グループ【防災・生活安全分野】

防災や生活安全は、区民の生命と財産を災害から守る強いまちづくりのために重要なテーマです。グループには、防災の知識が豊富な人や地域活動に従事している人、区内の防災・防犯体制に関心を持つ人など多様な背景を持った人が集まりました。港区をより良くするという共通認識の下、さまざまな視点から「地震等の災害対策」、「地域の防災力向上」、「生活安全の向上」の3テーマについて意見を交わし、提言書にまとめました。

「地震等の災害対策」については、会議の開催経過中に台風15号が発生したことで、暴風や浸水などの風水害対策の重要性についても再確認し、あらゆる災害に備えた「災害対策が万全で、区内にいるすべての人を守れる強いまちづくり」の構築に向けて区に求める施策について議論しました。

本テーマでは、避難所を利用する人たちのニーズに対応した体制の整備や女性の視点も取り入れた避難所運営のあり方について話し合いました。きめ細かな情報発信、在宅避難の徹底と周知、帰宅困難者に対する対応など、多くの意見が出されるとともに、発災後の一時滞在施設の開設状況の周知等について鋭い指摘が出るなど、最も議論が盛り上がったテーマとなりました。

「地域の防災力向上」については、区、区民、事業者における連携の重要性を再確認し、年齢や性別、要配慮の有無等に関わらず各主体が高い防災意識を持ち「地域で支え合える防災力を有するまち」の構築に向けて必要な取組について議論しました。

本テーマでは、公助の視点のみではなく、「自分たちのまちは自分たちで守る」という自助や共助の視点も考慮し、議論を重ねてきました。

「生活安全の向上」については、繁華街と住宅街が隣接している港区の特性を踏まえ、さまざまな背景を有する人が港区で安全に暮らし、活動していくために必要なことや取組について議論しました。

本テーマでは、パトロールなど犯罪が起こりにくい環境づくりや、犯罪発生情報の提供など情報発信の充実のほか、地域の無関心が犯罪を誘発するという観点から、きれいな街並みを維持するための取組の重要性など、安全な生活を送るうえで必要な取組について議論を重ねてきました。

本提言は、前回の提言を意識した内容となっています。よって、次期計画に反映されることをゴールとするのではなく、これらの想いを受け継ぎ、港区が今後ますます発展していくことを期待します。

# 提言の体系

テーマ	取組の方向性	提言内容（具体的な事業）
地震等の 災害対策	○港区の特性を踏まえた災害対策を広く周知する。 ○区が提供している各種防災ツールを有効活用した情報発信を行う。	(1)情報発信
	○避難所の整備・充実を図る。 ○女性の視点による防災対策を図る。	(2)避難所機能の強化
	○災害の発生に備え、日頃から災害に強いまちづくりを推進する。	(3)区民等に対する防災対策の支援
地域の 防災力向上	○区内の防災に関する人材を有効活用する。 ○発災時にお互い協力し合えるよう、日頃から各主体間が連携を図る。	(4)地域防災を担う人材育成および活用 (5)防災知識の普及・啓発 (6)防災住民組織等の活動に対する支援 (7)区、区民、事業者等との連携 (8)災害時要配慮者への対応
生活安全の 向上	○地域における主体間の連携やハード面の充実により、まちの安全を推進する。 ○さまざまな手段によって地域の安全安心の情報を幅広く提供する。 ○街並みの維持および向上のための取組を推進する。 ○区で取り組んでいる活動を周知し、地域の安全安心に対する意識向上を図る。	(9)地域の安全に向けた環境の整備 (10)情報発信の充実による生活安全意識の向上 (11)きれいな街並みを維持するための取組の推進

第1グループ  
【街づくり分野】

第2グループ  
【防災・生活安全分野】

第3グループ  
【環境リサイクル分野】

第4グループ  
【地域コミュニティ分野】

第5グループ  
【国際化・文化分野】

第6グループ  
【産業・観光分野】

第7グループ  
【子育て・教育分野】

第8グループ  
【生涯学習スポーツ分野】

第9グループ  
【福祉・保健分野】

# テーマ① 地震等の災害対策

## 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

### 災害対策が万全で、区内にいるすべての人を守る強いまち

一日頃から防災の取組が進んでおり、災害が発生した際は、区内にいるすべての人を災害から守れる体制が整備されている—

## 実現に向けた課題

### 【現状認識に関する意見】

- モバイルバッテリーや備蓄品の整備が進みつつある。
- 区には避難所の代わりとなる施設がある。
- 地域によっては防災組織に女性が多く、女性の視点を取り入れている。
- 地域によっては住民の90%が防災組織ネットワークに加入している。

### 【課題認識に関する意見】

- 避難所までの経路が明確になっていない。
- 一斉帰宅抑制や在宅避難者、液状化現象等、区の特徴を踏まえた対策が必要。
- 避難所の運営方法について改善していく必要がある。
- 主体間同士による連携の確立が必要。
- 防災ラジオや各種助成等、防災の体制が整いつつあるがさらなる充実が必要。
- 在宅避難に対するさらなる取組の推進が必要。
- 備蓄等の発災後対応についてもっと考える必要がある。
- 防災ラジオの多言語化や普及啓発等、情報伝達環境の整備が必要。
- 家具転倒防止用品の劣化に伴う代替手配や、木造物件の耐震強化等、災害に備えるべきことは多い。
- 他区からの避難者受け入れ等にも配慮する必要がある。

## 取組の方向性

- 港区の特性を踏まえた災害対策を広く周知する。
- 区が提供している各種防災ツールを有効活用した情報発信を行う。
- 避難所の整備・充実を図る。
- 災害の発生に備え、日頃から災害に強いまちづくりを推進する。
- 女性の視点による防災対策を図る。

## 具体的な事業

### (1) 情報発信

- 平時から、発災時に適切な避難行動がとれるよう、避難方法や手順の確認のほか自宅に重大な被害が無ければ在宅避難をするなど、防災マップ等を通じて防災対策の情報を発信する。
- 発災時には、区ホームページ、防災情報メール、ツイッター・フェイスブック等のSNS、防災アプリ、防災行政無線や280MHZ帯防災ラジオを活用し、災害状況や避難情報等に関する正確な情報を発信する。

### (2) 避難所機能の強化

- 近年の災害状況を踏まえた備蓄物資の充実を図るほか、プライバシーの確保やハラメント対策等、女性の視点も取り入れながら避難所を整備する。
- 地域の防災拠点として、災害情報の発信や物資の提供等を充実させ、避難所機能の強化を図る。

### (3) 区民等に対する防災対策の支援

- 発災時の被害を最小限に留めるため、家具転倒防止等、区民に対する防災対策の支援事業を充実させる。また、事業者と連携して帰宅困難者対策を充実させる。

## 参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- 災害に備えた体制づくりについて、企画段階から区民が参画する。
- 女性の積極的な参加を促す。
- 被害を最小限に留めるための施策を積極的に取り入れる。

## テーマ② 地域の防災力向上

### 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

#### 地域で支え合える防災力を有するまち

—防災対策に精通した人材が多く、高い防災意識を持っている。主体間の連携が強く、地域で支え合える防災力を有している—

### 実現に向けた課題

#### 【現状認識に関する意見】

- 地域によっては防災組織への加入率が高い。また、女性比率が高く、女性の視点による防災対策も図られている。
- 日頃から各所で防災訓練が頻繁に行われるなど、防災の重要性が広く浸透している。

#### 【課題認識に関する意見】

- 町内会と地域防災協議会をはじめとした組織間での連携推進が必要。
- 区内にいる防災士の積極的な有効活用が求められる。
- 住民組織だけでなく、事業所との連携も必要。
- マンション自治会の設立等、新たなネットワーク体制の構築が望まれる。
- 自治会への加入状況により、避難等に関する情報量の格差が生じている。
- 多面的に防災を捉える必要がある（女性・若者の視点など）。
- 家庭生活の中に、もっと防災の視点を取り入れたら良い。
- 発災時における外国人旅行者へのマニュアルが広く周知できていない。
- 避難所としての大使館の有効活用と可能性を考える必要がある。
- 災害時要配慮者に対処するための人手や手段を充当できていない。

### 取組の方向性

- 区内の防災に関する人材を有効活用する。
- 発災時にお互い協力し合えるよう、日頃から各主体間が連携を図る。
- 様々な視点から多面的に捉えた啓発を通じて、防災に対する意識や関心を高める。
- 災害時要配慮者（外国人含む）が適切に行動できる体制を整備する。



## 具体的な事業

### (4) 地域防災を担う人材育成および活用

- ・防災士等の地域の人材を有効活用して防災力強化を図るとともに、将来の防災を担う人材育成に努める。

### (5) 防災知識の普及・啓発

- ・防災イベントや映像等を利用した啓発を通じて、区の特徴を踏まえた防災知識を幅広く普及し、地域全体の防災意識を高める。

### (6) 防災住民組織等の活動に対する支援

- ・区が、地域防災協議会、町会・自治会、事業者等の活動に対して支援する。

### (7) 区、区民、事業者等との連携

- ・各地域で行われる防災訓練や防災イベントに区が積極的に関与し、情報交換等を通じて主体間の連携を強化する。

### (8) 災害時要配慮者への対応

- ・発災時に配慮を要する人も避難できるよう、災害時要配慮者に対する取組の理解促進を図る。

## 参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- ・各種イベント等を通じて、地域の主体間で緊密な関係を築いておく。
- ・若年層にも積極的に呼びかける。
- ・日頃から災害時要配慮者との交流を図り、取組の共有を図る。

## テーマ③ 生活安全の向上

### 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

区・区民・事業者・警察・消防等の連携による安全安心なまちづくりの推進

— 一区民の安全安心を守る各主体間の連携体制ができています —

### 実現に向けた課題

#### 【現状認識に関する意見】

- ・ 消防署によってはボランティアと共に積極的に防火活動に取り組んでいる。
- ・ 警察の目が行き届いていると感じる。
- ・ 全国的には夜間のコンビニのまわりに中高生がたむろし、非行の温床になっているようだが、港区ではみかけられない。
- ・ 大使館が多く警官が多く配置されている。
- ・ 繁華街での客引き行為に対し、注意を喚起している。また、区長・警察署長を先頭にキャンペーンを実行している。
- ・ 青パトはよく見かけ、少し安心する。
- ・ 住民のモラルが高い。
- ・ 安心して街を歩くことができる。
- ・ ハード面が充実している。
- ・ 全体の街並みがきれい。
- ・ 落書きを消去する活動を区が行っている。

#### 【課題認識に関する意見】

- ・ 火災から地域を守る啓発活動を実施しているが、参加者が限定されている。
- ・ 区長・警察署長が先頭の客引き防止キャンペーンを六本木地区以外も実施した方がいい。
- ・ 町会が街頭防犯カメラを設置する際の手続きに苦労する。
- ・ みんなと安全安心メールによるリアルタイムの情報発信が必要。
- ・ みんなと安全安心メールは結果メールがない。
- ・ 防災ラジオ、アプリ、行政無線で安全安心情報を流しても良いのでは。
- ・ メール以外での安全情報の入手チャンネルが無い。
- ・ みんなと安全安心メールに登録していないと情報が得られない。
- ・ 高齢者が多くサギ等の電話や被害が多い。

- 繁華街と住宅地区が隣接している。
- 放置自転車やバイクがまだまだ多い。
- タバコエリアが確立しているが、煙が充満して歩く人が迷惑。
- 飲食店前にメニュー看板が多く歩行のさまたげになっている。
- 自転車のマナーが悪い。
- 小中高生を犯罪から守る具体的な対策が知られていない。
- 落書きを消去する活動が知られていない。
- 生活安全協議会の存在が知られていない。
- 住民間の関係が薄くなってきた。

### 取組の方向性

- 地域における主体間の連携やハード面の充実により、まちの安全を推進する。
- さまざまな手段によって地域の安全安心の情報を幅広く提供する。
- 街並みの維持および向上のための取組を推進する。
- 区で取り組んでいる活動を周知し、地域の安全安心に対する意識向上を図る。

### 具体的な事業

#### (9) 地域の安全に向けた環境の整備

- 区・区民・警察・消防等の各主体が連携するとともに、防犯カメラ設置促進や青色防犯パトロールの巡回など犯罪が起こりにくい環境づくりを推進する。

#### (10) 情報発信の充実による生活安全意識の向上

- 区内の犯罪発生情報の提供に加え、特殊詐欺防止対策等の区が行う事業や地域で行われているパトロール等の取組を周知し、区民の生活安全意識を高める。
- みんなと安全安心メールによる情報発信を充実させるほか、多様な媒体や機会を通じて地域のさまざまな犯罪に関する情報提供を積極的に行う。

**(11) きれいな街並みを維持するための取組の推進**

- 住宅地と繁華街が隣接する区の特徴を踏まえ、道路等の公共の場所におけるルールの遵守やマナー向上の啓発を行い、落書きや放置自転車、ポイ捨て等のないきれいな街並みを維持する。

**参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)**

- 地域の主体間で交流を図り、緊密な関係を築いておく。
- 日頃から地域のルールやマナーが守られるよう、キャンペーン等の啓発活動に参加する。
- 区の実施する取組や情報に関心を持つなど、安全安心に向けて積極的に関わる。

# 開催経過 第2グループ【防災・生活安全分野】

回数	開催日時	内容
<b>第1回</b>	令和元年10月1日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局紹介</li> <li>・グループ会議の進め方について</li> <li>・分野における現状と課題について</li> <li>・リーダー、サブリーダーの選出</li> <li>・検討テーマの選定</li> </ul>
<b>台風15号発生！</b>		
<b>第2回</b>	令和元年10月15日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回グループ会議の振り返り</li> <li>・検討テーマ「地震等の災害対策」について</li> <li>→防災に関する区の取組についての説明を防災課長から受けて議論した。</li> </ul>
<b>第3回</b>	令和元年10月28日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回グループ会議の振り返り</li> <li>・検討テーマ「地震等の災害対策」について</li> <li>→台風15号の被害状況と対策についての説明を防災課長から受けて再度議論した。</li> </ul>
<b>第4回</b>	令和元年11月11日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回グループ会議の振り返り</li> <li>・検討テーマ「地域の防災力向上」について</li> <li>→地域の防災力向上に関する区の取組についての説明を防災課長から受けて議論した。</li> </ul>
<b>第5回</b>	令和元年11月22日(金) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回グループ会議の振り返り</li> <li>・検討テーマ「地域の防災力向上」について</li> <li>→第4回グループ会議で話し合われた内容を振り返り、内容を精査した。</li> </ul>
<b>第6回</b>	令和元年12月9日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回グループ会議の振り返り</li> <li>・検討テーマ「生活安全の向上」について</li> <li>→生活安全に関する区の取組についての説明を危機管理・生活安全担当課長から受けて議論した。</li> </ul>
<b>第7回</b>	令和元年12月23日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回グループ会議の振り返り</li> <li>・検討テーマ「生活安全の向上」について</li> <li>→第6回グループ会議で話し合われた内容を振り返り、内容を精査した。また、テーマ1およびテーマ2の提言内容についても再度精査した。</li> </ul>
<b>第8回</b>	令和2年1月14日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回グループ会議の振り返り</li> <li>・提言内容の確認について</li> <li>→テーマ1からテーマ3の提言内容について再度精査し、提言内容を取りまとめた。</li> </ul>

第1グループ  
【街づくり分野】

第2グループ  
【防災・生活安全分野】

第3グループ  
【環境・リサイクル分野】

第4グループ  
【地域コミュニティ分野】

第5グループ  
【国際化・文化分野】

第6グループ  
【産業・観光分野】

第7グループ  
【子育て・教育分野】

第8グループ  
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ  
【福祉・保健分野】

# みなとタウンフォーラム 第2グループ 防災・生活安全 提言書

令和2年3月23日（月）

グループ  
メンバー



松田 稔、堀 雄一、佐久間 孝夫  
南 かほる、小松 弘美、三戸谷 二郎、川村 潔（敬称略）

# 提言

## 地震等の災害対策

# 1.

提言内容

(1)情報発信 (2)避難所機能の強化 (3)区民等に対する防災対策の支援

## 地域の防災力向上

# 2.

提言内容

(4)地域防災を担う人材育成および活用 (5)防災知識の普及・啓発  
(6)防災住民組織等の活動に対する支援 (7)区、区民、事業者等との連携  
(8)災害時要配慮者への対応

## 生活安全の向上

# 3.

提言内容

(9)地域の安全に向けた環境の整備  
(10)情報発信の充実による生活安全意識の向上  
(11)きれいな街並みを維持するための取組の推進

# 提言 1. 地震等の災害対策

## (1) 情報発信

・平時から、発災時に適切な避難行動がとれるよう、避難方法や手順の確認のほか自宅に重大な被害が無ければ在宅避難をするなど、防災マップ等を通じて防災対策の情報を発信する。

・発災時には、区ホームページ、防災情報メール、ツイッター・フェイスブック等のSNS、防災アプリ、防災行政無線や280MHz帯防災ラジオを活用し、災害状況や避難情報等に関する正確な情報を発信する。

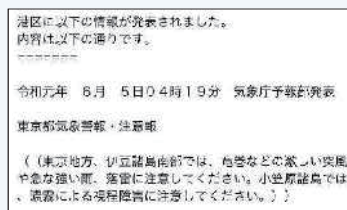
## (2) 避難所機能の強化

・近年の災害状況を踏まえた備蓄物資の充実を図るほか、プライバシーの確保やハラスメント対策等、女性の視点も取り入れながら避難所を整備する。

・地域の防災拠点として、災害情報の発信や物資の提供等を充実させ、避難所機能の強化を図る。

## (3) 区民等に対する防災対策の支援

・発災時の被害を最小限に留めるため、家具転倒防止等、区民に対する防災対策の支援事業を充実させる。  
また、事業者と連携して帰宅困難者対策を充実させる。



防災情報メール



避難所運営訓練の様子



## 提言2. 地域の防災力向上

### (4) 地域防災を担う人材育成および活用

- ・防災士等の地域の人材を有効活用して防災力強化を図るとともに、将来の防災を担う人材育成に努める。

### (5) 防災知識の普及・啓発

- ・防災イベントや映像等を利用した啓発を通じて、区の特徴を踏まえた防災知識を幅広く普及し、地域全体の防災意識を高める。

### (6) 防災住民組織等の活動に対する支援

- ・区が、地域防災協議会、町会・自治会、事業者等の活動に対して支援する。

### (7) 区、区民、事業者等との連携

- ・各地域で行われる防災訓練や防災イベントに区が積極的に関与し、情報交換等を通じて主体間の連携を強化する。

### (8) 災害時要配慮者への対応

- ・発災時に配慮を要する人も避難できるよう、災害時要配慮者に対する取組の理解促進を図る。



総合防災訓練での  
防災士による啓発活動



防災学校で学ぶ区民等  
の様子

## 提言3. 生活安全の向上

### (9) 地域の安全に向けた環境の整備

- ・区・区民・警察・消防等の各主体が連携するとともに、防犯カメラ設置促進や青色防犯パトロールの巡回など犯罪が起こりにくい環境づくりを推進する。



青色防犯パトロールの巡回

### (10) 情報発信の充実による生活安全意識の向上

- ・区内の犯罪発生情報の提供に加え、特殊詐欺防止対策等の区が行う事業や地域で行われているパトロール等の取組を周知し、区民の生活安全意識を高める。
- ・みんなと安全安心メールによる情報発信を充実させるほか、多様な媒体や機会を通じて地域のさまざまな犯罪に関する情報提供を積極的に行う。

### (11) きれいな街並みを維持するための取組の推進

- ・住宅地と繁華街が隣接する区の特徴を踏まえ、道路等の公共の場所におけるルールの遵守やマナー向上の啓発を行い、落書きや放置自転車、ポイ捨て等のないきれいな街並みを維持する。



落書き消去活動



みなとタウンフォーラム  
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年10月1日（火）18時30分～20時30分

会 場：港区役所5階 防災課会議室

メンバー参加者：7名（うち1名テレビ会議）

事務局：対応部門関係課長2名（防災課長、生活安全担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開 会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 リーダー、サブリーダーの選出
- 5 検討テーマの選定
- 6 その他

（閉 会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
4	グループ会議の進め方について
5	検討テーマ集計結果
6	区の生活安全について

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

## ■会議要旨

### (開会)

事務局より、第1回グループ会議開催にあたっての開会宣言を実施した。  
第1回グループ会議に限り、事務局が進行することを確認した。  
配布資料について確認した。

## 1 事務局紹介

全体会欠席者の自己紹介を実施した。  
事務局より、資料1に基づき事務局メンバー紹介を実施した。

## 2 グループ会議の進め方について

事務局より、資料2～資料4に基づきグループ会議の検討スケジュール等について説明を行い、以下の内容を確認した。

### (確認事項)

- ・第2回グループ会議は10月15日(火)18:30～とし、場所は事務局で確保して後日連絡する。
- ・第3回グループ会議は、10月28日(月)を予定する。
- ・第4回以降は、資料2に記載の日程での開催とする。必要に応じて日程調整する。
- ・検討テーマを3テーマ選定し、各テーマ2回を使って議論する。それぞれ1回目は現状と課題、将来像、取組の方向性について議論し、2回目に具体的な事業、参画と協働について議論する。
- ・グループワーク(議論)は模造紙・付箋紙を用いて行う。

### (主な意見等)

- 参加者：ホワイトボードを用いるグループワークと付箋紙を用いるグループワークのいずれも経験したが、付箋紙の方が意見を出しやすかったと記憶している。
- 参加者：付箋紙を用いるグループワークを実施したことがないので、模造紙・付箋紙を用いた方法に興味がある。
- 参加者：付箋紙を用いるグループワークの方が良いと思うが、書き方やまとめ方についてはルールを統一した方が良い。例えば、付箋一枚につき二つ以上の意見を書かないことや、出された意見を集約する人をあらかじめ決める、といった一定の基準を設けることが望ましい。
- 参加者：意見を集約する際は、全員で協議の上、参加者の総意として取りまとめた方が公平性の確保が図れると考える。
- 事務局：今後の会議は、付箋紙を用いる方法で進める。また、今回出していただいた意見も含め、付箋紙を用いるグループワークについてのルールを事務局でまとめる。その他、テレビ会議出席者に対しても配慮するなど、円滑な会議となるよう体制を整備する。

## 3 分野における現状と課題について

事務局より、港区基本計画に基づき、第2グループに関係する港区基本計画の第1部「かがやくま

ち」の政策（５）、（６）について、政策ごとに「現状と課題」、「主な取り組み」の説明を行った。また、「安全で安心できる港区にする条例」および「港区生活安全行動計画」の概要について説明を行った。

#### 4 リーダー、サブリーダーの選出

リーダー及びサブリーダーの役割の説明を行った後、リーダー及びサブリーダーを選出した。

#### 5 検討テーマの選定

事務局より、資料５に基づきグループ会議検討希望テーマ集計結果を報告し、リーダーを中心とした議論を踏まえ、以下の３テーマに決定した。

テーマ１	地震等の災害対策
テーマ２	地域の防災力向上
テーマ３	生活安全の向上

#### （主な意見等）

参加者：検討テーマの対象者は共通しているのか。もし共通しているなら、具体的な対象者は誰を想定しているか。

参加者：現行計画では、港区で生活する人々と事業者のために策定している。よって、次期計画の対象者も区民と区内事業者であると理解している。また、災害発生時に区内にいる人々も対象に含まれると考えている。

参加者：次期計画は、前回の計画を踏襲して策定するという認識で良いか。それとも、今までの計画とは別の事業を提案しても良いのか。

参加者：現行計画を踏襲して更なる発展を目指すことや、新たな視点から事業の提案するかについては、当グループ内で協議して決定することだと考えている。

事務局：各テーマの範囲内であれば特に制限を設けていないので、自由な発想の下、さまざまな提案をしていただきたい。

参加者：港区の在勤者が被災した場合は、港区と区内事業者の契約に基づいて対応をすることが定められている。しかし、過年度の計画までに決められてきたことを踏襲しなくて良いとなった場合、話の方向性が定まらなくなるのではないか。区内住者を対象にするなど、ある程度対象となる範囲を絞った方が協議しやすいのではないか。

参加者：協議を進める中で、何か問題があれば個別に対応すれば良い。区民のほか、在勤者や在学者、区外に勤務している区民を対象とすれば問題ないと考えている。

参加者：まずは現状の問題点を洗い出し、その後に現行計画の踏襲や改善について話し合えば良い。

参加者：地震等の災害が発生した際、具体的に区がどのように地域と連動するかについて説明していただきたい。

事務局：地域防災計画に基づき、地域全体で災害対策を進める。例えば、避難所の運営は地域防災協議会が行い、その具体的な内容は避難所運営マニュアルにまとめられている。

参加者：区と地域がどのように連動するかを整理した組織図などはあるか。

事務局：組織図のような具体的なアウトプットはないものの、災害が発生した際は、総合支所の職員が地域協議会とともに避難所を立ち上げて区民の安全確保を図るといった体制が

整備されている。

参加者：現状は、災害発生時における行政の対応について定めた計画のみであり、地域住民の対応について定めた計画が存在していない。よって、今回のグループ会議を通じて、地域における災害発生時の具体的な体制を整備することが必要であると考えている。

参加者：今まで出た意見は、提言に係る内容に偏っているので、まずはテーマを選定してから順を追って話を進めていければ良い。

リーダー：今まで出た意見の中には、テーマに沿ったものもあると考えられるので、その時に改めて発言していただきたい。

## 6 その他

第2回グループ会議は、テーマ1「地震等の災害対策」の現状・課題、将来像、取組の方向性について議論することとし、10月15日（火）18:30～、開催場所は防災課会議室であることを確認した。また、第1回グループ会議の議事録を事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

（閉会）

事務局が、第1回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム  
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年10月15日（火）18時30分～20時30分

会 場：港区役所5階 防災課会議室

メンバー参加者：6名

事務局：対応部門関係課長1名（防災課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、  
委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 前回のふりかえり
- 2 「テーマ1 地震等の災害対策」に関する説明
- 3 テーマ1に関する議論
  - (1) 現状と課題について
  - (2) 取組の方向性
  - (3) 計画最終年度における将来像の検討

4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第1回グループ会議のふりかえり
2	グループ会議の進め方
3	地域防災協議会の構成団体（町会・自治会等）
4	地域防災協議会の位置図
5	平成30年における災害を踏まえた区の実施計画について
参考資料	第1回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

## ■会議要旨

### (開会)

リーダーより、第2回グループ会議開催にあたっての開会宣言を実施した。  
配布資料について確認した。

### 1 前回のふりかえり

事務局より、資料1に基づき前回のふりかえりを行った。  
また、議事録の内容について、参加者より了承を得た。

### 2 「テーマ1 地震等の災害対策」に関する説明

事務局より、資料3～資料5に基づき港区の防災対策に係る現状について説明を行った。

#### (主な意見等)

参加者：今回発生した台風の被害状況の概要をご説明いただきたい。

事務局：港区における台風の被害状況は、倒木や冠水、雨漏りがそれぞれ数件程度と、被害の状況は幸いにして大きくなかった。なお、冠水はすでに土木部門が対応済みである。

参加者：避難状況はどれくらいか。

事務局：台風発生当初は自主避難施設を5地区で開設した。その後、大雨警戒レベル3の避難情報を発信したことに伴い、避難所も開設した。

参加者：台風15号発生時に港区が君津市を支援した概要をご説明いただきたい。

事務局：台風15号の影響によって千葉県で甚大な被害が発生した当日、港区は水やブルーシート等の物資提供を行うなど、君津市の支援活動に取り組んだ。

参加者：防災ラジオの配布について、一般区民のほか事業者にも配布しているのか。

事務局：まずは区民への配布を最優先している。

参加者：他自治体では、下水設備復旧時の邪魔になるとの理由により、マンホールトイレの活用に対して消極的であるように感じたが、港区では積極的に活用するのか。

事務局：それぞれ自治体の考え方があると思われるが、港区は東京都と連携して整備する方向である。

参加者：高層マンションは建物自体の安全性は高いものの、余震による揺れが大きく、建物内にいる人にとって良くない影響が多い。そのため、高層マンション住民に対するケアが必要と考える。ただ、現行計画をみると、高層住宅の震災対策がやや手薄である印象を受ける。

事務局：高層住宅は港区に多く建設されているため、他の施策に比べて手厚い構成となっている。

参加者：現状では、帰宅困難者の対応に係る協定を民間事業者と締結しているが、ゆくゆくは防災協議会へシフトすることを検討しているか。

事務局：そのような検討はしていない。

参加者：発災時に提供される段ボールベッドの数は、民間事業者との契約に基づいてあらかじめ決められているのか。

事務局：発災時に避難所へ段ボールベッドを供給する旨の契約は締結しているが、具体的な提供数は決まっていない。必要に応じて流動的に対応する。



事務局：備蓄食料は、アレルギー食やハラル食に対応しているか。

参加者：それぞれに対応した備蓄食品を確保している。また、民間でも販売されている。

事務局：防災行政ラジオで発信されているリアルタイムの情報は、どのように収集しているのか。

参加者：気象庁や東京都からの情報に加え、民間企業とも連携している。

### 3 テーマ1に関する議論

#### (1) 現状と課題について

事務局よりグループワークの進め方およびねらいについて説明が行われた。

リーダーの進行のもと、意見交換が行われた。

#### (港区の良い所に関する主な意見等)

参加者：地域によっては、ほとんどのマンションが防災協議会に加入していることは良いことだと思う。また、ネットワーク内で積極的に意見交換ができていたり、保育園や幼稚園、小中学校が協議会に協力的であり、地域で一体感を持っていることも港区の良い所だと認識している。

参加者：港区は資金が豊富なので、ハラル食への対応や防災行政ラジオの配布等、さまざまな防災対策ができる。

参加者：防災協議会によっては組織の女性比率が比較的高いため、女性の意見や視点を取り入れた組織づくりができています。

参加者：家具転倒防止策の啓発が進んでおり、区の支援策を知っている区民は多い。

参加者：モバイルバッテリー対策が進みつつあるなど、災害対策のインフラが整備されてきていることは良いと思う。

#### (港区の課題に関する主な意見等)

参加者：システム障害で防災アプリがダウンロードできないことは課題と感じている。

参加者：区内にある木造物件の耐震強化なども必要であると考えている。

参加者：港区は水辺に面しているため、液状化現象の発生および対応も必要ではないか。

参加者：実態は定かでないが、町会費負担していない住民は、避難所へ入れないと決めている防災協議会があると聞いたことがある。

参加者：発災時にたまたま港区にいる人への具体的な対処が定められていないと感じる。港区は、昼夜間人口比率が約4倍と多く、昼間区内にいる人の多くは区外在住者であるため、このような人たちへの適切な対処方法の確立が必要ではないか。

参加者：港区に限った話ではないが、高齢化に伴い、多くの町会では若いリーダーがいないことも課題であると考えている。

参加者：実際に大きな災害を経験したことがないため、どのように災害が発生するのかを想定できていない。

参加者：港区では在宅避難がメインとなっているが、本当に徹底できているかについては疑問を感じる。

参加者：防災ラジオの存在自体を認識していない区民が多いため、広く周知する必要がある。

参加者：事業所への一斉帰宅抑制を周知することも課題である。

リーダー：事業所の一斉帰宅抑制について、どのくらいの規模の事業所が対象になるかを明確にしておく必要がある。これについては、事務局にも確認したい。

参加者：荒川区や江戸川区では、発災時に区外へ避難するよう周知している。このように区外から港区にきた人への具体的な対応策を整えておくことは重要だ。

参加者：マンション管理組合の理事を務めているが、防災資機材の助成制度を知らなかった。同じようなことは、他のマンション管理組合でもあるのではないか。

参加者：港区は外国の方も多いため、防災無線の多言語化も必要だと思う。

参加者：災害が長期化した場合、在宅避難者への非常食の配布をどのように実施するかを明確にしておくことは大事だ。

リーダー：非常食の配布は、基本的に区が実施することとなっている。

参加者：町会に入会していない住民は避難所等に関する情報が乏しいので、どのように周知するかが課題となる。また、小規模・ワンルームマンションの住民は、発災時に規律ある行動ができるか心配である。

## (2) 取組の方向性

## (3) 計画最終年度における将来像の検討

時間の都合上、次回に検討することとなった。

## 4 その他

第3回グループ会議は、テーマ1「地震等の災害対策」の将来像、取組の方向性、具体的な事業および参画と協働について議論することとし、10月28日(月)18:30～、開催場所は防災課会議室であることを確認した。また、第2回グループ会議の議事録および現状と課題に対する意見の取りまとめを事前に送付すること、将来像と取組の方向性は、次回のグループ会議までに各自検討すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

## (閉会)

リーダーが、第2回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上



みなとタウンフォーラム  
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年10月28日（月）18時30分～20時15分

会 場：港区役所5階 防災課会議室

メンバー参加者：6名

事務局：対応部門関係課長1名（防災課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、  
委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第2回グループ会議のふりかえり
- 2 取組の方向性と将来像の検討に関する議論
- 3 施策への提言に関する議論
  - （1）具体的な事業
  - （2）参画と協働
  - （3）施策への提言

4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第2回グループ会議ふりかえり
2	「地震等の災害対策」について（第2回グループ会議の意見より）
参考資料1	グループ会議の進め方
参考資料2	第2回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

## ■会議要旨

### (開会)

リーダーより、第3回グループ会議開催にあたっての開会宣言を行った。  
配布資料について確認した。

### 1 第2回グループ会議ふりかえり

事務局より、資料1に基づき前回のふりかえりを行った。  
なお、議事録の内容について、参加者より了承を得た。

### 2 取組の方向性と将来像の検討に関する議論

事務局より、資料2に基づき取組の方向性と将来像の取りまとめイメージ案を報告した。

#### (主な意見等)

参加者：取組の方向性イメージについて、「区内における自治会間の連携強化や情報伝達環境の整備により、すべての区民を災害から守る体制が構築されている。」とあるが、この表現だと、マンションが含まれていない印象を受ける。もっと横の繋がりを意識できる表現にできれば良い。

事務局：「区内における自治会間の連携強化や情報伝達環境の整備、マンション自治会の設立等、新たなネットワークの構築により、すべての区民を災害から守る体制が構築されている。」といった表現に変更したい。

参加者：そのような表現に修正するのであれば、概ね了承した。

参加者：「組織・情報ネットワーク」における意見の傾向について、「防災組織への加入率が高い。また、女性比率が高く、女性の視点による防災対策も図られている。」とあるが、港区全体として防災組織の女性比率は高いのか。

参加者：一部の組織での女性比率は高いのかも知れないが、全体的な傾向ではないと思う。女性比率が高いことを意見の傾向にすると、あたかも港区の防災組織すべてにおいて女性比率が高いといった誤解を与えかねない。よって、「防災組織への・・・」の文章は、取組の方向性イメージに移動させ、今後、港区が目指す姿のひとつとして整理した方が望ましいのではないか。

事務局：ただ今のご指摘のとおり、「防災組織への・・・」の文章は、取組の方向性イメージとしたい。

### 3 施策への提言に関する議論

事務局より具体的な事業および参画と協働、施策への提言についての説明が行われた。

なお、本会議では、(1) 具体的な事業、(2) 参画と協働、(3) 施策への提言の3つを一体的に検討し、リーダーの進行のもと、意見交換が行われた。

#### (主な意見等)

参加者：具体的な事業の意見出しについて、次回以降のテーマ「地域の防災力向上」と重複しないような事業に絞って挙げるべきか。

- リーダー：事業は重複しないことが望ましい。しかし、とりあえずは各参加者が考えていることをすべて書き出していただきたい。もし、地域の防災力向上に関する事業が出た場合は、次回に持ち越す等の対応を図りたい。
- 参加者：多言語対応等の機器を各避難所で設置すれば、区内に多くいる外国籍の方も避難しやすいのではないか。
- 参加者：前回の事務局説明にて、現行における防災ラジオの情報内容は避難情報等に関する内容が主である旨の説明を受けたと記憶しているが、地震が発生した後の情報も提供していただきたい。
- 事務局：現行では、防災情報無線で発信した内容をラジオでも提供する体制が整っている。よって、防災情報無線で被害情報等の発信があれば、それに続いて防災ラジオでも同一の情報が提供される。
- 参加者：具体的にどのような情報が提供されるかについて検討すべきだと考える。行政が発信する内容はややマクロ寄りである一方、避難者が求めている情報はミクロな情報であるため、情報の質に対する両者の擦り合わせは必要だ。
- 参加者：防災アドバイザーの存在自体を知らない人は多いと思われるので、広く周知して活用できれば良い。
- 参加者：企業活動と行政の活動をうまく連携させることも必要だ。
- 参加者：何かしらの障害をお持ちの方に対する配慮について、例えば、体が不自由な方は優先的に避難させる必要があるので、行政はそのような方の情報を常時把握しておく必要があるのではないか。
- 参加者：「地域」ではなく「行政」が障害をお持ちの方の情報を把握するということか。発災時に頼れるのは行政ではなく地域なので、地域間での情報共有の方が必要ではないか。
- 参加者：確かに、避難行動の際は、地域での協力が求められるため、地域間での情報共有も必要だと思われる。ただ、最終的に地域レベルでの取組に落とし込むとしても、地域全体の情報を把握しやすい行政が個々の情報を整理しておくことが大事ではないか。
- 参加者：災害が発生した後にボランティア登録をすると、非常に時間を要する。よって、今回の東京オリンピックのように、予めボランティア登録をしておくといった方法もある。
- リーダー：本日、皆様から出していただいた意見は、方向性が類似している意見を中心に集約させていただく。また、取組の方向性の垣根を越えて集約される場合も想定されることについては、予めご了承いただきたい。
- 事務局：「防災組織への加入率が高い。また、女性比率が高く、女性の視点による防災対策も図られている。」について、特に女性視点からの防災に関する具体的な事業があれば、ご提示いただきたい。
- 参加者：まずは女性の視点に立ち、避難している際にどのような物や配慮が必要かについて考えた方が良い。そのためには、多くの女性に加入してもらうことが必要だ。
- 参加者：妊娠や授乳といったさまざまなステージにおける対応についても考える必要があり、それらを包括的に対応することが望ましい。また、避難先におけるプライベート空間の確保や、セクハラ防止策等、考慮すべきことは他にもある。

#### 4 その他

第4回グループ会議は、テーマ2「地域の防災力向上」における将来像、取組の方向性、具体的な事業および参画と協働について議論することとし、11月11日（月）18:30～、開催場所は防災課会議室であることを確認した。また、第3回グループ会議の議事録および現状と課題に対する意見の取りまとめを事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

#### （閉会）

リーダーが、第3回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム  
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年11月11日（月）18時30分～20時15分

会 場：港区役所5階 防災課会議室

メンバー参加者：6名

事務局：対応部門関係課長1名（防災課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、  
委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 前回のふりかえり
- 2 「テーマ2 地域の防災力向上」に関する説明
- 3 テーマ2に関する議論
  - (1) 現状と課題について
  - (2) 取組の方向性
  - (3) 計画最終年度における将来像の検討

4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	具体的な事業の整理（地域の防災力向上）
2	提言までの整理（地域の防災力向上）
参考資料	第3回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

## ■会議要旨

### (開会)

リーダーより、第4回グループ会議開催にあたっての開会宣言を実施した。  
配布資料について確認した。

### 1 前回のふりかえり

事務局より、資料1および資料2に基づき前回のふりかえりを行った。  
また、議事録の内容について、参加者より了承を得た。

### 2 「テーマ2 地域の防災力向上」に関する説明

事務局より、貸与資料1に基づき説明を行った。

### (主な意見等)

事務局：地域の防災力向上における現状と課題は、自助・共助・公助の理念に基づきそれぞれの役割と責任を果たして実効的な防災対策を構築していくことである。地域の防災力向上のために地域防災協議会や防災組織、防災士の育成に取り組んでおり、また、災害時に自力で非難が困難な方に対する安全確保も課題として捉えている。外国人に対する知識の啓発をするために、国際防災ボランティアの支援なども課題としている。

重点事業として、地域防災を担う人材の育成がある。地域の防災活動を担う人材として、防災士の育成の支援をしている。次に、家具の転倒防止である。自宅でケガをすることが多いので、区は家具の転倒防止器具の助成をしている。また、マンション対策の震災ハンドブックや大震災に備えて各種パンフレット等の作成、出前講座なども実施している。その他、事業所の防災対策において、従業員や顧客の安全対策、帰宅困難者対策、事業所のBCP等の整備をしている。災害時要配慮者対策の充実では、災害時に避難を要する方、特に高齢者や障害者等、災害時に支援が必要な方の避難行動要支援者登録名簿を作成しているほか、警察・消防と民生委員などが日頃から連携して個別支援計画の作成を進めている。他に外国人の防災対策、福祉避難所設置や受け入れ等に取り組んでいる。

参加者：防災住民組織について、マンション居住者等からなる防災組織や事業者との連携を支援するというのは、具体的に何を指しているのか。

事務局：防災協議会にマンション自治会が参加することや、事業者が参加するといったことを指している。

参加者：事業者も防災協議会に入る必要があるということか。また、「事業者」というのは、不特定多数の事業者を指しているのか。区と防災協定している事業者を指しているのか。

事務局：地域の事業者全般を指している。

参加者：防災協議会に出るためには、区から何かしらの推薦が必要なのか。また、「支援」とは具体的に何を指しているのか。

事務局：地域防災協議会の活動支援であり、防災訓練や避難訓練等の手伝いをしている。

参加者：「マンションの居住者等の防災組織や事業者との連携を支援」とは、資金の助成を指していないのであれば何なのか。行政は、事業者に対してどんな支援を行うのか。



- 参加者：防災協議会に支所も一緒に参加し、様々な問題を解決することだと認識している。
- 参加者：それは、人的な支援、例えば知恵やアイデアを出してもらおうといったことか。
- 参加者：そのように認識している。
- 参加者：実際、芝浦地区の方では、町内会とマンション自治会が一緒になって防災協議会を設立しているが、自分の自治区ではマンション自治会がそもそもない。このように、地域によって差があるため、今日話し合われた支援の話は、おそらく防災協議会に加入していないマンション自治会や事業者に届いていないと思う。
- 事務局：地域防災協議会に自治会も参加してもらい、お互いに情報共有し、いざという時に備えることが必要である。区としてはそういった地域の活動を、5つの総合支所の協働推進課がサポートして、活動を活発化しようとフォローしている。その中には高層の住宅に防災資機材を配備したり、地域防災協議会に活動の補助金を出したり、わずかではあるが物理的な支援もしており、活動の人的支援も行っている。
- 参加者：港南地区は事業所も一緒に加入している。事業所を勧誘する際、区の人と一緒にしてもらった例がある。事業所との連携というの、それに入るのかと思う。
- 参加者：港南地区は、モデルケースとしてうまくいっている地域である。逆に、そうでない地域もあることを認識する必要がある。
- 参加者：何世帯以上のマンションは防災協議会に加入する必要がある、といった規則があれば、多くの人に参加していただけたらと思う。数百世帯もしくはそれ以上の規模になるマンションは自治会の設置が求められているので、防災協議会にも代表者が参加するといった旨のガイドラインがあれば良い。そうなると、多くの人防災に関わる行動を理解するようになるのではないかな。
- 事務局：実際、町内会や自治会が組織されていない地域もあるため、町内会や自治会をいかに活発化させるかといった課題において、防災がキーワードになってくる。例えば、芝浦地区、港南地区、お台場地区などでは、防災をキーワードに町内会・自治会を活発化させる流れになっている。
- 参加者：デベロッパーによると、マンション居住者は町内会に入らないとのことである。町内会に参加し、さらに町内会費を支払ってもらうようお願いすることはできないとの理由からだ。よって、港区から指導してほしい。ただ、そのような所に自治会を設立したところで、おそらく防災協議会には入らないだろう。地域には参加しないと明言しているわけだから、港区の考えとは合わないと思う。
- 参加者：有事の際は、その人たちが避難所に来る可能性はあるのか。
- 参加者：大きなビルでは、災害時にビル内から出ないよう防災訓練で言われている。
- 参加者：自分が居住しているマンションは町内会に参加しているため、町内会員は防災協議会にも参加していることになる。既に町内会に入っているため、マンションがそのまま防災協議会に入らないといけないかという、その必要はないと思う。ただ、最近建設されたマンションの中には、町内会に参加されないことを決めているマンションもあるので、そこは残念だ。
- 参加者：今の話の目的は、町内会に参加しないマンションを無くすようにするといった内容か。
- 参加者：特に賃貸住宅の方は、加入できる組織がない。もしかしたら町内会費を支払っているかもしれないが、加入している意識はないと思う。管理費に会費が含まれているといった

認識だけで、それ以上の感覚を持っていない人が多いからだと考えられる。

参加者：賃貸住宅の場合は、賃借人がマンション所有者に支払い、それらをまとめて所有者が町内会に支払っている。ただ、これら費用は家賃に含まれているため、賃貸人が日常的に意識しているかはわからない。

参加者：少し話を変えたい。今、防災士が育成されようというところだが、本当は育成が目的ではなく、住民組織の中でいかに活躍させるかということが目標だと考えている。よって、区内の防災協議会において、どの程度の防災士が活躍できているかを把握したい。今後も防災士の人数を増やしたいので、行政からもご検討いただきたい。

事務局：今いる防災士がどこで活躍しているか、といった個別具体的な情報は把握していない。防災士を養成するという目標は立てたので、今後、どの程度の方が地域で活躍しているかといったことまで細かに把握していきたい。

参加者：ある程度把握することは可能だと思うので、是非ともお願いしたい。

参加者：防災士の活躍先は地域防災協議会だけでなく、帰宅困難者の協議会などもある。

参加者：家庭の防災対策で、先ほど転倒防止器具の助成の話があったが、港区の世帯に占める実施した世帯割合はどの程度か。

事務局：実際に区の助成制度を利用して対策をされている方は約15%程度だが、その他、自分で購入して対策している方や、家具がないので対策をする必要がない方、家具の配置を工夫している方などを対策している状況に含めると、およそ7割の方が対策をしていることになる。

参加者：数字の根拠はどこか。

事務局：世論調査の結果からである。

参加者：それは、どういう人を対象とした世論調査なのか。

事務局：港区民から無作為抽出している。様々な区政の課題に占める項目の1つとしてお聞きしたものである。

リーダー：ただ今、事務局より説明いただいた地域防災力の向上については、これからも内容を充実させるため、現状把握に努めるなど、今後のバックアップを行政にお願いしたい。

### 3 テーマ2に関する議論

#### (1) 現状と課題について

参加者：外国人対応として、モノレール入り口に観光インフォメーションセンターがあり、そこでは災害時行動マニュアルがある。逆に、そこ以外には見当たらないので、今後の課題だと思う。

参加者：避難所は、発災の状況によって開いていない場合があるのか。例えば、台風の際は開いていないのか。

参加者：場所による。地震が発生した時も台風が発生した時も開いている避難所もあるので、確かにわかりづらい。



## (2) 取組の方向性

参加者：区の事業者が必ず所属する必要がある組織はあるか。

参加者：そのような組織はないと思われる。

参加者：極端な話、事業者との連携が図りにくい場合、区の事業者が必ず所属する必要がある組織があれば、そこと連携することで区内事業者とも連携を取れる。

参加者：商工会議所等は、区と事業者との繋がりを持ちやすい組織だと思う。少なくとも、連携を望んでいる事業者かどうかの確認だけでも取れば良い。

参加者：中小企業や個人事業主との連携も必要である。区が、これら中小企業や個人事業主にコンタクトを取ることは可能か。

事務局：中小企業へのアプローチは重要であると考えている。また、中小企業は自分たちで防災の取組をできていないことが多いため、商工会議所を通じて情報交換している。その他、BCPの改訂時には意見をいただいたり、策定時には計画書を確認していただいたりしている。なお、港区には商工会議所以外にも商店街連合会や産業団体連合会があるので、これら組織にも連携を図っている。

参加者：最終的な効果の確認はしているか。

事務局：最終的な効果は把握できていないものの、防災対策を講じていただけるよう積極的に普及啓発を実施している。

## (3) 計画最終年度における将来像の検討

時間の都合上、次回に検討することとなった。

## 4 その他

第5回グループ会議は、テーマ2「地域の防災力向上」の将来像、具体的な事業および参画と協働について議論することとし、11月22日（金）18:30～、開催場所は防災課会議室であることを確認した。また、第4回グループ会議の議事録および現状と課題に対する意見の取りまとめを事前に送付すること、将来像と取組の方向性は、次回のグループ会議までに各自検討すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

## (閉会)

リーダーが、第4回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム  
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年11月22日（月）18時30分～20時30分

会 場：港区役所5階 防災課会議室

メンバー参加者：6名

事務局：対応部門関係課長1名（防災課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、  
委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 前回のふりかえり
- 2 取組の方向性と将来像の整理
- 3 施策への提言に関する議論
  - （1）グループ会議の進め方について
  - （2）具体的な事業
  - （3）参画と協働
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第4回グループ会議ふりかえり
2	提言までの整理
参考資料	第4回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

## ■会議要旨

### (開会)

リーダーより、第5回グループ会議開催にあたっての開会宣言を実施した。  
配布資料について確認した。

### 1 前回のふりかえり

事務局より、資料1に基づき前回のふりかえりを行った。  
また、議事録の内容について、参加者より了承を得た。

### 2 取組の方向性と将来像の整理

事務局より、資料2に基づき説明を行った。

### 3 施策への提言に関する議論

事務局より具体的な事業および参画と協働、施策への提言についての説明が行われた。  
なお、本会議では、(1) 具体的な事業、(2) 参画と協働、(3) 施策への提言の3つを一体的に検討し、リーダーの進行のもと、意見交換が行われた。

### (主な意見等)

- 参加者：人材の有効活用として、ボランティアの事前登録や防災士を地域防災協議会へ振り分けること、町会組織と防災協議会組織を分けることのほか、学生の積極的な活用も挙げられる。
- 参加者：区内に22か所ある防災協議会の会議開催回数や人員増等の組織改革も求められる。
- 参加者：イベントを通じて地元の小中学生の参加を募ることや、啓発を目的とした区民イベントの開催があれば良い。また、たくさんの家族が参加するよう、ポイントゲーム等の工夫を凝らした取組ができれば良い。
- 参加者：防災訓練参加者への防災グッズ支給、災害対策時の行動をアニメ・映画等にして作成するといった取組があれば良い。
- 参加者：マンションの管理者への防災教育や、防災に無関心な住民に対して何かしらの周知を図ることが必要だ。
- 参加者：災害時に落下等の危険がありそうなビルの看板やブロック塀の補強費用の助成事業や一般避難者・帰宅困難者対応に必要な救急キットを整備等、ハード面や物に関する事業も必要であり、これら事業の多くが助成等の資金を必要とする。
- 参加者：発災時、すぐに避難できるよう、避難所と分かるような表示をする。また、避難所の運営について、町会・自治会が中小事業者に対して備蓄品スペースを提供するといった取組も必要と考えられる。
- 参加者：一時集合場所で安否確認する人材が避難所開設で必要になるので、そこをうまく取り組む必要がある。
- 参加者：在宅避難者の安否確認・ニーズ聴取を中高生に任せるのはどうか。
- 参加者：先ほど出た「ボランティアの事前登録」について、具体的にはどのような内容を想定しているか。

参加者：防災協議会もしくは社会福祉協議会に登録している区内ボランティアの活用を想定している。現在は発災後にボランティア登録する事務手続きになっているが、例えば、東京2020大会ではボランティアが事前登録になっている。この方法に倣って、区内ボランティアを事前登録制にすれば良いと考えている。また、人員の担当も予め決めておけば良いと考えている。

参加者：東京2020大会でも多くの人が登録したと聞いている。よって、港区の防災についても、さらに人数を増やす方法を考えたい。

リーダー：そのためには、区民のやる気を高める工夫が必要といえる。

#### 4 その他

第6回グループ会議は、テーマ3「生活安全の向上」の将来像、具体的な事業および参画と協働について議論することとし、12月9日（月）18:30～、開催場所は防災課会議室であることを確認した。また、第5回グループ会議の議事録を事前に送付すること、将来像と取組の方向性は、次回のグループ会議までに各自検討すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

（閉会）

リーダーが、第5回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム  
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年12月9日（月）18時30分～20時00分

会 場：港区役所5階 防災課会議室

メンバー参加者：7名

事務局：対応部門関係課長2名（危機管理・生活安全担当課長、防災課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第5回グループ会議のふりかえり
- 2 テーマ1およびテーマ2における提言までの整理
- 3 テーマ3「生活安全の向上」に関する説明
- 4 現状と課題等に関する議論
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第5回グループ会議ふりかえり
2	会議の経過（地震等の災害対策）
3	会議の経過（地域の防災力向上）
4	テーマ①とテーマ②の整理
5	提言イメージ（地震等の災害対策）
6	提言イメージ（地域の防災力向上）
参考資料	第5回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

## ■会議要旨

### (開会)

リーダーより、第6回グループ会議開催にあたっての開会宣言を実施した。  
配布資料について確認した。

### 1 前回のふりかえり

事務局より、資料1に基づき前回のふりかえりを行った。  
また、議事録の内容について、参加者より了承を得た。

### 2 テーマ1およびテーマ2における提言までの整理

事務局より、資料2～6に基づき説明を行った。

#### (テーマ1についての主な意見等)

参加者：提言にある「避難所機能等の強化」について、「強化」は何を指しているのか明確にした方が良い。また、発災時に避難所を利用する人は区民全体の数%に過ぎないので、提言のタイトルは、発災後港区内にいる人々に呼びかけ、避難所へ行く人たちへのサービスを向上させる旨の内容にしたらどうか。

参加者：「情報発信等」について、在宅避難者が災害後も問題なく生活できるよう、事前準備を呼びかける内容にしたらどうか。

参加者：「区民等への防災対策の支援」について、災害が日中に発生した場合、区民以外の人達が多くいると想定されるため、一時滞在施設や備蓄の充実等にしたらどうか。

参加者：将来像に「区内にいる人すべてを守れる」の文言がある一方、提言「情報発信等」では「区民に正確な情報を…」とあり、表現が矛盾している。

#### (テーマ2についての主な意見等)

参加者：「新たなネットワーク体制」や「新たなネットワークの構築」等の表現があり、提言にも「情報ネットワークの強化」と記述されているが、具体的には何を指しているのか。

参加者：提言「区、区民、企業等との連携」について、「発災時における帰宅困難者受け入れ対応等の共有を図る」とあるが、今までは、事前共有を図れないという認識でいた。ここで「事前共有」の文言を用いることは、情報の提供が可能であると誤解を招きかねないと思われる。同じような話は、提言「要配慮者への対応」についてもいえる。情報の共有は本当にできるのか。

参加者：帰宅困難者への対応については、地域の防災協議会の会長と副会長レベルが企業と区の協定を締結している程度の事前情報でも良いので知っていれば、それぞれの地域で帰宅困難者を振り分けて受け入れることが可能になる。発災してから情報公開しても遅いと思われる。

参加者：各防災協議会が管轄しているエリア内の企業が港区と協定を締結している情報だけでもあれば良い。

参加者：「地域防災力の向上」に要配慮者への対応とあるが、そもそもどこが対応するのか、また、どこで受け入れられるか、といった具体性に欠けていると思われる。企業や学校が



一時滞在施設であれば、そこに勤務・通学している人は施設から出ないといった明確なルール決めをもっと周知した方が良いと思う。そのうえで、どの程度の避難所が必要かを改めて整理できれば、区内にいる人々を守れる体制ができるのではないかと。

参加者：避難所と同時に一時滞在施設が開設されるので、避難所は区民優先にして、来街者を一時滞在施設で受け入れてもらうといった体制の整理が必要だ。

### 3 テーマ3「生活安全の向上」に関する説明

事務局より、貸与資料1に基づき説明を行った。

(主な意見等)

参加者：青パトはよく見かけるが、巡回中に落書き等の行為を目撃した場合は、実際に注意をするのか。

事務局：犯罪行為を目撃した場合は、凶悪犯による行為を除いて基本的には警察に通報する。ただし、区民の生命が脅かされるような場合は、その場で確保する。

参加者：被害に遭わない呼びかけだけでなく、犯罪をしないよう呼びかけているか。

事務局：犯罪しづらい状況づくりは必要であり、実際に行っている。例えば、昨今の特殊詐欺犯罪において、小中学生や高校生が本人も気づかぬうちに犯罪の手助けをしていたケースがあった。これを踏まえ、どのようなことが特殊詐欺に繋がるかといった周知啓発を行っている。

事務局：「生活安全に関するネットワークの強化」とあるが、具体的にはどのような主体がネットワークに参加しているか。

参加者：ネットワークの形は様々な形がある。区民の場合は、地域の協議会を通じて区と区民と結び付けている。

参加者：港区の刑法犯認知件数は、他区と比べて良いのか。それとも良くないのか。

事務局：犯罪は全国的に減少傾向となっており、東京都においても減少している。その中で、港区の犯罪件数は、繁華街等の一部地域を除いて概ね平均程度ではないか。港区が特別悪いことはないと認識している。

参加者：先日、新聞で歌舞伎町の取組が掲載され、街を防犯カメラで監視して、客引き行為等を見つけるとマイクで指導するといった内容だった。その結果、歌舞伎町での客引き行為は減少したとあったが、そのような取組は港区ではしないのか。

事務局：現在は、パトロール隊が巡回しているが、同様の取組は技術的に可能なので、要望があれば対応を検討したい。また、客引きを行わせているのは店なので、そのような店に対して行政指導をさらに実施したい。

参加者：防犯カメラの設置する際、NTTに依頼する等の実務は町内会がやらないといけないので、区でやっていただけようお願いしたい。

事務局：正確な現状把握ができていないので、一度整理して対応したい。極力、地域に負担がかからないよう努めたい。

#### 4 現状と課題等に関する議論

(主な意見等)

参加者：消防署によってはボランティアと共に積極的に防火活動に取り組んでいる。

参加者：全国的には夜間のコンビニのまわりに中高生がたむろし、非行の温床になっているようだが、港区ではみかけられない。

参加者：みんなと安全安心メールは結果メールがない。

参加者：飲食店前にメニュー看板が多く歩行のさまたげになっている。

参加者：みんなと安心安全メールに登録していないと情報が得られない。

#### 5 その他

第7回グループ会議は、テーマ3「生活安全の向上」の具体的な事業および参画と協働について議論することとし、12月23日(月)18:30～、開催場所は防災課会議室であることを確認した。また、第6回グループ会議の議事録を事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

(閉会)

リーダーが、第6回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上



みなとタウンフォーラム  
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年12月23日（月）18時30分～20時00分

会 場：港区役所5階 防災課会議室

メンバー参加者：5名（傍聴者1名）

事務局：対応部門関係課長2名（危機管理・生活安全担当課長、防災課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第6回グループ会議のふりかえり
- 2 テーマ1およびテーマ2における提言までの整理
- 3 テーマ3「生活安全の向上」に関する議論
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第6回グループ会議ふりかえり
2	提言イメージ（地震等の災害対策）
3	提言イメージ（地域の防災力向上）
参考資料	第6回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

## ■会議要旨

### (開会)

リーダーより、第7回グループ会議開催にあたっての開会宣言を実施した。  
配布資料について確認した。

### 1 前回のふりかえり

事務局より、資料1に基づき前回のふりかえりを行った。  
また、議事録の内容について、参加者より了承を得た。

### 2 テーマ1およびテーマ2における提言までの整理

事務局より、資料2、3に基づき説明を行った。

#### (テーマ1についての主な意見等)

参加者：提言「情報発信」について、「港区ホームページや防災ラジオ等のツールを有効活用し…」と記載されているが、他の情報伝達手段はないのか。

事務局：主としてはホームページや防災行政無線があり、その補完として防災ラジオがある。その他、Twitter等のSNSやJCOMを使った情報提供、デジタルサイネージ、防災情報メールや防災アプリなどが揃っている。

参加者：具体的な手段があるなら、それらを全て記載した方が良いか、もしくは代表的なものだけを記載した方が良いか。

事務局：多様な情報伝達手段に取り組んでいるため、それらをご紹介したい。

参加者：提言「区民等に対する防災対策の支援」について、現状では帰宅困難者に対する避難所と一時滞在施設の連携がうまく図れていない印象を受けたが、住民以外の人も受け入れる旨の表現があれば良い。

事務局：在勤者や来街者への対応は事業者に対して協力を仰いでおり、受入態勢の確保もできつつある。そのような取組についても加えることを検討したい。

参加者：取組の方向性の内容が前回資料に比べて簡略化されているが、その意図は何か。

事務局：取組の方向性の役割は、現状と課題を包括的に捉えて提言に繋げることにある。ただ、前回までお示しした内容は個別具体的な内容に言及しすぎており、提言との棲み分けが図られていなかったため、表現を改めた。

参加者：取組の方向性「避難所の整備・充実を図る」について、これは実際に実行可能なのか。

事務局：避難所の質を向上させるため、改善をさらに進める必要があると考えている。

参加者：収容人員の増員を図る取組は検討しているか。

事務局：「避難所の整備・充実を図る」とは、あくまで避難所の質向上についてである。また、新たな区有施設ができれば、随時避難施設としての適性を検討したい。

参加者：提言「避難所機能の強化」について、避難する人の中には情報が欲しい人や水・食料が欲しい人など様々なニーズがあると考えられるので、それらに応えられる内容にできたら良い。

参加者：今の提言を見ると、避難した人たちが快適に過ごせることを目的としたイメージを捉えられかねないので、先ほどの意見にもあったとおり、多様なニーズに応えられる拠点と

しての役割を示せばよいと思う。

参加者：提言「区民等に対する防災対策の支援」について、区民と事業者だけでなく意識付けを目的としてマンション管理組合も含めた方がよいと思う。

参加者：マンション管理組合といった個別に特定できる言葉を入れると対象の範囲を狭める恐れがあるため、「区民」という言葉で全て包括した方がよいのではないか。

参加者：「区民、事業者、町会・自治会」とすれば、包括的な表現ができると思うがいかがか。

参加者：(異議なし)

#### (テーマ2についての主な意見等)

参加者：「町内会」と「町会」などの表記ゆれがあるので、統一したら良い。

参加者：提言「防災住民組織等の活動に対する支援」と「区、区民、事業者等との連携」の内容が重複しているように思われる。

事務局：「防災住民組織等の活動に対する支援」は民間同士の連携について言及しており、「区、区民、事業者等との連携」は三者の連携であると整理している。

リーダー：これら2つは別々にした方がよいと思うがいかがか。

参加者：(異議なし)

参加者：「区、区民、事業者等との連携」とあるが、この「事業者等」には学校や大学は含まれるのか。

参加者：それらも包含していると認識している。

参加者：提言「防災知識の普及・啓発」について、「女性や若者」にすると彼らの防災意識が低いような印象を与えかねない。

参加者：特に若者はイベントへの参加率が低いだけなので、そのような人への意識付けができれば良い。

参加者：「多くの区民に幅広く…」としたらどうか。

リーダー：「若年層」といった表現にすれば、幅広い年齢層もカバーできると思われるがいかがか。

参加者：(異議なし)

参加者：一般的な防災知識ではなく、区の特徴を捉えた防災知識にしたらどうか。区民だけでなく、区外の人にも広く普及する旨の内容にできれば良い。

リーダー：提言「要配慮者への対応」について、「取組の共有」とすると、これから共有を図るイメージである。すでに構築できている連携に対する理解を促すため、「連携の理解促進」とするのはいかがか。

事務局：現状と課題には「外国人旅行者へのマニュアルが広く周知できていない」「避難所としての大使館の有効活用と可能性」とあり、これを踏まえると、「取組の共有」になると認識している。そのため、「連携の理解促進」では現状と課題との関連付けが難しくなる。要配慮者への対応については、第8回で再度協議していただきたい。

### 3 テーマ3「生活安全の向上」に関する説明

#### (主な意見等)

参加者：ほかの自治体では、一定年齢以上の方に詐欺の可能性を知らせるアプリを普及

させているほか、固定電話に着信があった際、会話が記録されている旨を知らせるアダプタも配布しているとの情報を聞いたことがある。そのような取組が港区もできれば良い。

事務局：詐欺被害防止のために自動で通話を録音する装置は、現在港区も無料で配布している。また、詐欺の注意を促すため、犯人の電話番号を広く周知している。

参加者：先ほどのご意見で他市の取組事例を紹介いただいたが、他市での取組事例を紹介する会議が開ければ被害を防ぐことができるかも知れない。そのようなネットワークは港区に存在しているか。

事務局：特別区と警察による共同会議の際に他市での取組事例等について情報共有を図っている。

参加者：詐欺による被害は、日本中で何十億にも上るので、そのような場がもっとあれば良い。また、港区で現在無料配布している装置は、周知をしているのか。

事務局：区の広報誌やホームページのほか、高齢者に対しては年金に関する通知と併せてチラシを配布している。その他、機会があれば積極的に取り組んでいるが、更なる周知が必要であると感じている。

参加者：自転車のマナーが悪く、高齢者にとっては危険だ。自動車と同様、厳格な取り締まりをしてほしい。

事務局：取り締まり自体は警察の管轄になるが、区ではマナー向上に関する意識付けに取り組んでいる。

参加者：最近では自転車での配達が増えてきており、この人たちの運転がかなり危険に感じている。

事務局：自転車を運転している人が所属している事業者に対しては警察と連携して個別の対策を図ることが可能である。

参加者：今日のグループ会議に参加する途中でも、自転車と歩行者の接触事故を目撃した。もっとマナーに対する意識啓発を高めていくべきである。

事務局：マナーや環境の乱れは大きな犯罪の前段階であると認識しているので、区では啓発する取組を今後も進めていきたいと考えている。

## 5 その他

第8回グループ会議は、テーマ1～テーマ3について確認いただき、最終的な合意を得ることを確認した。また、2020年1月14日（火）18:30～、開催場所は防災課会議室であることを確認した。第7回グループ会議の議事録を事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

### (閉会)

リーダーが、第7回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム  
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第8回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和2年1月14日（火）18時30分～20時00分

会 場：港区役所5階 防災課会議室

メンバー参加者：7名

事務局：対応部門関係課長2名（危機管理・生活安全担当課長、防災課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第7回グループ会議のふりかえり
- 2 テーマ1からテーマ3における提言までの整理
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第7回グループ会議ふりかえり
2	提言イメージ（地震等の災害対策）
3	提言イメージ（地域の防災力向上）
4	提言イメージ（生活安全の向上）
参考資料	第7回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

## ■会議要旨

### (開会)

リーダーより、第8回グループ会議開催にあたっての開会宣言を実施した。  
配布資料について確認した。

### 1 前回のふりかえり

事務局より、資料1に基づき前回のふりかえりを行った。  
また、議事録の内容について、参加者より了承を得た。

### 2 テーマ1からテーマ3における提言までの整理

事務局より、資料2～4に基づき説明を行った。

#### (テーマ1についての主な意見等)

参加者：「地震等の災害対策」における具体的な事業「避難所機能の強化」について、「女性の視点を取り入れながら・・・」とあるが、「女性の視点も取り入れながら・・・」とした方が表現として望ましい。

事務局：表現については修正する。

参加者：具体的な事業「情報発信」について、防災情報メールが発信されるタイミングと対象者を教えていただきたい。

事務局：防災情報メールの登録をした方に対して防災行政無線で提供された情報や気象情報等の情報がメール形式で発信される。

参加者：具体的な事業「情報発信」について、「自宅に被害が無ければ・・・」とあるが、被害の状況は個人の感覚に依るものであるため、判断が難しいように思われる。基本的には在宅避難を推奨したい旨の意図は読み取れるものの、仮に大型の地震が発生すれば、一部損傷を含めほとんどの建築物で何かしらの被害が生じると考えられる。そのため、「被害が無い」と表現することが望ましいかについて疑問がある。

参加者：本来であれば、日常生活を送ることが困難に感じるほど大きな被害という内容を指していると思われるが、その一方で「日常生活を送ることが困難」について改めて定義する必要があるため、いずれにしても判断は難しい。

リーダー：皆さんから頂いた意見を基に、「被害が無ければ・・・」の表現を「大きな被害が無ければ・・・」もしくは「重大な被害が無ければ・・・」と包括的な表現に修正するのはいかがか。

参加者：(異議なし)

参加者：具体的な事業「区民等に対する防災対策の支援」について、帰宅困難者対策は港区および近隣区で統一されているのか。

事務局：発災時の対応に係る基本的な方向性は東京都内で統一されている。よって、港区も東京都の方向性に沿った対応を図ることとなっている。



(テーマ2についての主な意見等)

- 参加者：「地域防災を担う人材育成および活用」について、「将来の防災を担う人材育成に努める」とあるが、具体的にはどのような内容を指しているのか。
- 事務局：まずは防災士の育成が挙げられる。その他、消防団の育成や、有資格者でない人に対する防災意識の醸成も含まれている。そのため、個別具体的な内容ではなく、さまざまな方面で活躍する人材の育成を目的とした内容としている。
- 参加者：「要配慮者への対応」の主体は区が担うという解釈で良いか。
- 事務局：基本的には区が主体だが、民生委員をはじめとした関係者とも協力・連携して取り組んでいく内容となっている。
- 参加者：「防災知識の普及・啓発」について、「若年層等に幅広く普及し・・・」とあるが、特定の年代に限定しない方が良いと思われる。「性別や年齢を問わず・・・」という表現はいかがか。
- 参加者：「性別や年齢を問わず・・・」とわざわざ表現することはないと思う。「区の特徴を踏まえた防災知識を幅広く普及し・・・」とした方が内容的にも理解しやすい。
- 参加者：(異議なし)

(テーマ3についての主な意見等)

- 参加者：「生活安全の向上」について、具体的な事業に「情報発信の充実による生活安全意識の向上」とあるが、情報発信の手段について教えていただきたい。自宅に防災ラジオがあり、電源を一日中付けているが、通常は夕方までの情報提供であるため、少しもったいなさを感じている。もう少し情報提供の機会を増やすことはできないか。
- 事務局：防災ラジオの基本的な運用として、まず文字情報を流し、その後ラジオで音声復元をしている。具体的には、台風発生時の避難勧告やJ-A L E R T、熱中症の情報等である。
- 参加者：特殊詐欺に関する情報を提供することはないのか。
- 事務局：基本的には、緊急事態が発生した場合に限り情報提供をしている。技術的には特殊詐欺に関する注意喚起の情報提供も可能だが、どのような場合にどのような情報提供が望ましいかについては、精査する必要がある。
- 参加者：もし可能であれば、犯人が逃亡したなどの緊急情報の提供もご検討いただきたい。
- 事務局：検討する。
- 参加者：「情報発信の充実による生活安全意識の向上」について、自分は今まで安全安心メールについての存在を知らなかった。よって、活用する前に周知を図ることが必要だと思われる。
- 事務局：「情報発信の充実による生活安全意識の向上」における「区が行う事業や地域で行われているパトロール等の取組を周知し・・・」の部分に安全安心メールの周知も含めている。最終的には、区の実施の取組と情報提供の両輪で推進していきたいと考えている。現在、資料に書かれている具体的な事業の順番を変更し、まずは区の実施の取組を周知してから情報発信に取り組む、とするのはいかがか。
- 参加者：そのような内容であれば承知した。



### 3 その他

提言式は、令和2年3月23日（月）午後6時30分～午後8時30分に港区役所9階911～913会議室で開催することを確認した。

#### （閉会）

リーダーが、第8回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上